

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-520	22-314	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Reduced alcohol preference and intake after fecal transplant in patients with alcohol use disorder is transmissible to germ-free mice. アルコール使用障害患者における糞便移植後のアルコール嗜好性と摂取量の減少は、無菌マウスに伝播する		
執筆者		
Fagan A, Zhao D, Sikaroodi M, Herzog J, Shamsaddini A, Peña-Rodríguez M, Su L, Tai YL,		
掲載誌		
Nat Commun. 2022 Oct 19;13(1):6198. doi: 10.1038/s41467-022-34054-6.		
キーワード	PMID	
アルコール使用障害、糞便移植、腸肝臓-脳軸	36261423	
要旨		
<p>アルコール使用障害は罹患率の大きな原因であり、新しい治療アプローチが必要とされている。われわれは以前、ランダム化臨床試験において、糞便移植後にアルコール渴望と消費が減少することを示した。ここで、このことが微生物移行によって伝達されるかどうかを調べるため、無菌雄性 C57BL/6 マウスに、糞便移植の前後に試験参加者から採取した便または滅菌上清を投与した。その結果、糞便移植後の便でコロニー形成されたマウスは、上清でコロニー形成されなかったマウスに比べて、エタノールの受容性、摂取量、嗜好性が低下することがわかった。また、糞便移植後のヒトで高かった微生物分類群は、マウスのアルコール摂取量および嗜好性の低下とも関連していた。発現量の差のある遺伝子（免疫反応、炎症、酸化ストレス反応、上皮細胞増殖）の大部分は、肝臓や前頭前皮質よりもむしろ腸で発現していた。これらの知見は、腸内細菌叢と微生物-腸管界面を治療標的とすることで、腸肝臓-脳軸を変化させ、ヒトのアルコール摂取を減少させる可能性を示唆している。</p>		